

様式第2号の1-②【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第2号の1-①を用いること。

学校名	専門学校日本鉄道&スポーツビジネスカレッジ
設置者名	学校法人立志舎

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

課程名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数又は授業時数	省令で定める基準単位数又は授業時数	配置困難
ビジネス専門課程	鉄道・トラベル学科(2年制)	夜・通信	850 時数	80×2=160 時数	
	ビジネス総合学科(2年制)	夜・通信	260 時数	80×2=160 時数	
文化教養専門課程	スポーツ学科(2年制)	夜・通信	345 時数	80×2=160 時数	
(備考)					

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

HPにて授業科目一覧表を公開。授業科目一覧の中で、教員の実務経験に関するチェック欄あり。 (掲載： https://www.all-japan.ac.jp/disclosure#ns)
--

3. 要件を満たすことが困難である学科

学科名
(困難である理由)

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	専門学校日本鉄道&スポーツビジネスカレッジ
設置者名	学校法人立志舎

1. 理事（役員）名簿の公表方法

HPにて理事名簿を公開している (掲載： https://www.all-japan.ac.jp/disclosure#other)

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容 や期待する役割
非常勤	税理士事務所所長	2019.11.29 ～ 2022.11.28	企画・調整
非常勤	会社役員	2019.11.29 ～ 2022.11.28	コンプライアンス
(備考)			

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	専門学校日本鉄道&スポーツビジネスカレッジ
設置者名	学校法人立志舎

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

<p>1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。</p>	
<p>(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要) 鉄道・トラベル学科(2年制)、ビジネス総合学科(2年制)、スポーツ学科(2年制) 【作成について】 作成過程 各授業科目については、年2回開催している業界関係者、有識者および学園職員で構成する教育課程編成委員会の意見を十分に生かし、学内のカリキュラム作成委員会およびカリキュラム会議により教育課程の作成を行い、授業科目の設定・講義内容についての検討に基づき、各授業科目の担当者が作成している。 シラバスは以下の5項目から成る。 1 科目名・開講年次・授業時数・単位数・種類・分類・授業方法・担当教員 2 講義主要目標及び講義概要 3 講義・演習項目 4 テキスト 5 成績評価 シラバス作成の際には、次の点に留意すること。 1について 「授業時数」と「単位数」との関係については、20時数につき1単位とする。 「種類」は、科目の内容に応じて「一般科目」または「専門科目」と記入する。 「分類」は、「必修」または「選択必修」と記入する。 「授業方法」は、科目の内容に応じ「講義」または「演習」と記入する。 ただし、講義と演習を併用して行う場合には、主になる方を記入する。 「担当教員」は、「本学教員」または「実務経験のある教員」と記入する。 2について 学生に何を修得させるのか明確にすること。また、それをどのように実現していくのか、その方向性を示すこと。 3について 2で示した方向性をどのような内容で具体化してゆくのか、項目を立てて記入すること。 4について 授業で使用するテキストやプリント等を記入すること。 5について テスト等、成績評価の対象となるものを記入すること。 【時期について】 作成時期は2～3月上旬、公表時期は3月末とする。</p>	
授業計画書の公表方法	掲載： https://www.all-japan.ac.jp/disclosure#ns

2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。

(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要)

授業科目の学修成果の評価についてはあらかじめ設定した成績評価の方法・基準により、厳格かつ適正に単位授与および履修認定を行うこととし、成績評価については学則第10条および専門課程便覧において規定している。

学則第10条

授業科目の成績評価は、学年末において、各学期末に行う試験、実習の成果、履修状況等を総合的に勘案して行う。ただし、出席時数が授業時数の3分の2に達しない者は、その科目について評価を受けることができない。

専門課程便覧

- (1) 単位は、前期試験受験者・後期試験受験者に対して考査の上、与えられる。ただし、前期試験・後期試験は、科目ごとに出席時数が授業時数の3分の2に達しない者は受けることができない。
- (2) 科目ごとに出席時数が授業時数の3分の2に達しない者は、補講への出席・課題の提出を行った上で追試を受けることができる。
- (3) 前期試験・後期試験において著しく点数が低い者は再試を受けることができる。
- (4) 成績は、秀・優・良・可・不可に分け、秀・優・良・可を合格とし、不可を不合格とする。成績評価は、期末試験・授業期間中に実施するテスト・実習の成果・履修状況等を総合して判断する。
- (5) 合格者の成績評価割合は、成績上位から10%程度を秀、30%程度を優、50%程度を良、10%程度を可とする。
- (6) 合格した授業科目については、所定の単位を取得したものとする。

3. 成績評価において、GPA等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。

(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要)

【GPAの算定について】

1. 学期末に上記Ⅲの成績評価に基づき、秀・優・良・可・不可の評価を行う。
2. 上記の評価に基づきGPAを算定する。

(1) 算定方法

- ① 1単位当たり秀：4.0、優：3.0、良：2.0、可：1.0、不可：0とする。
- ② 秀(取得科目数) 優(取得科目数) 良(取得科目数) 可(取得科目数)
 $4.0 \times \text{取得単位数} + 3.0 \times \text{取得単位数} + 2.0 \times \text{取得単位数} + 1.0 \times \text{取得単位数}$
=GPA換算数
- ③ $\text{GPA換算数} \div \text{総履修単位数}$ (不可の履修単位数を含む)
=個人GPA (小数点3位を四捨五入)

【実施時期】

前期(4月から9月)、後期(10月から3月)の2回実施し、3月末に年間GPAをシステム上で算定する。

客観的な指標の算出方法の公表方法	掲載： https://www.all-japan.ac.jp/disclosure#other						
4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。							
<p>卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要)</p> <p>1. 卒業認定 各学科とも、修業年限以上在籍し各学科所定の単位数を修得するとともに、以下の素養を身につけた学生に対して卒業を認定する。</p> <table border="1" data-bbox="331 573 1307 938"> <tr> <td data-bbox="331 573 616 696">鉄道・トラベル学科</td> <td data-bbox="616 573 1307 696">旅行・ホテル・鉄道業界において業務を行う上で必要な知識および技能とビジネスに関する正しい知識を身につける。</td> </tr> <tr> <td data-bbox="331 696 616 819">ビジネス総合学科</td> <td data-bbox="616 696 1307 819">民間企業において経理・営業・事務・販売の業務をする上での正しい知識と的確な技能を身につける。</td> </tr> <tr> <td data-bbox="331 819 616 938">スポーツ学科</td> <td data-bbox="616 819 1307 938">スポーツ業界において運動指導や販売業務を行う上で必要な知識と実技およびビジネスに関する正しい知識を身につける。</td> </tr> </table> <p>2. 進級基準 46 単位 ただし、下記の学科・コースにおいては、進級基準を次のとおりとする。 スポーツ学科 スポーツビジネスコース 39 単位 スポーツトレーナーコース 40 単位 健康スポーツ公務員コース 39 単位</p> <p>3. 卒業単位 86 単位 ただし、下記の学科・コースにおいては、卒業単位を次のとおりとする。 スポーツ学科 スポーツビジネスコース 76 単位 スポーツトレーナーコース 80 単位 健康スポーツ公務員コース 80 単位</p> <p>4. 卒業判定会議を卒業年次の2月末に実施する</p>		鉄道・トラベル学科	旅行・ホテル・鉄道業界において業務を行う上で必要な知識および技能とビジネスに関する正しい知識を身につける。	ビジネス総合学科	民間企業において経理・営業・事務・販売の業務をする上での正しい知識と的確な技能を身につける。	スポーツ学科	スポーツ業界において運動指導や販売業務を行う上で必要な知識と実技およびビジネスに関する正しい知識を身につける。
鉄道・トラベル学科	旅行・ホテル・鉄道業界において業務を行う上で必要な知識および技能とビジネスに関する正しい知識を身につける。						
ビジネス総合学科	民間企業において経理・営業・事務・販売の業務をする上での正しい知識と的確な技能を身につける。						
スポーツ学科	スポーツ業界において運動指導や販売業務を行う上で必要な知識と実技およびビジネスに関する正しい知識を身につける。						
卒業の認定に関する方針の公表方法	掲載： https://www.all-japan.ac.jp/disclosure#ns						

様式第2号の4-②【(4)財務・経営情報の公表（専門学校）】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第2号の4-①を用いること。

学校名	専門学校日本鉄道&スポーツビジネスカレッジ
設置者名	学校法人立志舎

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	https://www.all-japan.ac.jp/disclosure#other
収支計算書又は損益計算書	同上
財産目録	同上
事業報告書	同上
監事による監査報告（書）	同上

2. 教育活動に係る情報

①学科等の情報

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
商業実務		ビジネス専門課程	鉄道・トラベル学科	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼	1,720 単位時間/単位	1,440 単位時間/単位	1,200 単位時間/単位	490 単位時間/単位	単位時間/単位	単位時間/単位
			3,130 単位時間/単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
136		69	0人	3人	0人	3人	

カリキュラム (授業方法及び内容、年間の授業計画)
(概要) 様式第2号の3【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】の1.を参照
成績評価の基準・方法
(概要) 様式第2号の3【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】の3.を参照
卒業・進級の認定基準
(概要) 様式第2号の3【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】の4.を参照
学修支援等
(概要) 本学はゼミ学習により知識の定着率向上を図り、定期的な答案練習会(テスト)を実施して学生の修得状況を確認している。また、担任制度を設けており勉強面や生活面の相談を受けるとともに、学生相談室を設け学生の支援を行っている。就職指導については就職部と担任が連携して就職指導を行っている。保護者との連携は年4回の学生の状況のお知らせを発送し、必要に応じて電話連絡や保護者面談を行い、学生支援を行っている。

卒業生数、進学者数、就職者数 (直近の年度の状況を記載)			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
17人 (100%)	0人 (0%)	17人 (100%)	0人 (0%)

(主な就職、業界等)	
<ul style="list-style-type: none"> ・鉄道等運輸業界 JR東海、東京メトロ、西武鉄道、京成電鉄、メトロコマース 京急バス、帝産観光バス 他 ・旅行、ホテル業界 強羅花扇、リゾートトラスト 他 ・その他 セノン 他 	
(就職指導内容)	
<p>新入生就職セミナーで早期の意識付けをし、学内就職セミナー・進路決定のための就職 公務員ガイダンス・業界研究・業種研究により情報収集を行ったうえで自己分析や面接 指導を行い、学生、担任、就職部担当者と三位一体で就職活動を行っている。</p>	
(主な学修成果(資格・検定等))	
総合旅行業務取扱管理者試験	受験者 16人 合格者 4人
国内旅行業務取扱管理者試験	受験者 17人 合格者 13人
旅行地理検定	受験者 3人 合格者 2人
サービス接遇検定3級	受験者 15人 合格者 1人
(備考) (任意記載事項)	

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
53人	2人	3.8%
(中途退学の主な理由)		
就職および学習意欲喪失、この他に学費未納で除籍が1名		
(中退防止・中退者支援のための取組)		
担任が学生の状況を確認し、欠席が多い学生の面談や学生からの相談を受けており、担任に話しづらい場合は学生相談室の利用、保護者への郵送による出席状況報告をして学生支援を実施している。		

【ビジネス総合学科】

分野		課程名	学科名		専門士	高度専門士	
商業実務		ビジネス専門課程	ビジネス総合学科		○		
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼	1,720 単位時間/単位	920 単位時間/単位	1,260 単位時間/単位	単位時間/単位	単位時間/単位	単位時間/単位
			2,180 単位時間/単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
28		3	0人	3人	0人	3人	

カリキュラム (授業方法及び内容、年間の授業計画)
(概要) 様式第2号の3【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】の1.を参照
成績評価の基準・方法
(概要) 様式第2号の3【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】の3.を参照
卒業・進級の認定基準
(概要) 様式第2号の3【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】の4.を参照
学修支援等
(概要) 本学はゼミ学習により知識の定着率向上を図り、定期的な答案練習会(テスト)を実施して学生の修得状況を確認している。また、担任制度を設けており勉強面や生活面の相談を受けるとともに、学生相談室を設け学生の支援を行っている。就職指導については就職部と担任が連携して就職指導を行っている。保護者との連携は年4回の学生の状況のお知らせを発送し、必要に応じて電話連絡や保護者面談を行い、学生支援を行っている。

卒業生数、進学者数、就職者数 (直近の年度の状況を記載)			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
10人 (100%)	0人 (0%)	7人 (70%)	3人 (30%)
(主な就職、業界等) 中部自動車販売、Dawn、福や、ベルク 他			

(就職指導内容)		
新入生就職セミナーで早期の意識付けをし、学内就職セミナー・進路決定のための就職公務員ガイダンス・業界研究・業種研究により情報収集を行ったうえで自己分析や面接指導を行い、学生、担任、就職部担当者と三位一体で就職活動を行っている。		
(主な学修成果(資格・検定等))		
全経簿記検定2級商業簿記	受験者10人	合格者8人
日商簿記検定3級	受験者10人	合格者7人
秘書検定2級	受験者10人	合格者5人
サービス接遇検定2級	受験者10人	合格者6人
マイクロソフトオフィススペシャリスト (Word)	受験者10人	合格者6人
(備考) (任意記載事項)		

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
13人	0人	0%
(中途退学の主な理由)		
(中退防止・中退者支援のための取組)		
担任が学生の状況を確認し、欠席が多い学生の面談や学生からの相談を受けており、担任に話しづらい場合は学生相談室の利用、保護者への郵送による出席状況報告をして学生支援を実施している。		

【スポーツ学科】

分野		課程名	学科名		専門士	高度専門士	
文化・教養		文化教養専門課程	スポーツ学科		○		
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼	1,720 単位時間/単位	920 単位時間/単位	1,720 単位時間/単位	1,015 単位時間/単位	単位時間/単位	単位時間/単位
			3,655単位時間/単位				
生徒総定員数	生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任員数	総教員数		
80人	28人	0人	3人	1人	4人		

カリキュラム (授業方法及び内容、年間の授業計画)
(概要) 様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】の1. を参照
成績評価の基準・方法
(概要) 様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】の3. を参照
卒業・進級の認定基準
(概要) 様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】の4. を参照
学修支援等
(概要) 本学はゼミ学習により知識の定着率向上を図り、定期的な答案練習会(テスト)を実施して学生の修得状況を確認している。また、担任制度を設けており勉強面や生活面の相談を受けるとともに、学生相談室を設け学生の支援を行っている。就職指導については就職部と担任が連携して就職指導を行っている。保護者との連携は年4回の学生の状況のお知らせを発送し、必要に応じて電話連絡や保護者面談を行い、学生支援を行っている。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
21人 (100%)	0人 (0%)	21人 (100%)	0人 (0%)
(主な就職、業界等) セサミ、総合体育研究所等、ファクトリージャパン、TLSグループ、ボディ企画研究所等			
(就職指導内容) 新入生就職セミナーで早期の意識付けをし、学内就職セミナー・進路決定のための就職公務員ガイダンス・業界研究・業種研究により情報収集を行ったうえで自己分析や面接指導を行い、学生、担任、就職部担当者と三位一体で就職活動を行っている。			
(主な学修成果（資格・検定等）) 健康運動実践指導者 受験者 14人 合格者 11人 リテールマーケティング検定 受験者 7人 合格者 5人 ビジネス能力検定 受験者 16人 合格者 15人 上級救命技能認定 受験者 15人 合格者 15人 NSCA 体カトレーニング検定 受験者 10人 合格者 8人			
(備考) (任意記載事項)			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
41人	5人	12.2%
(中途退学の主な理由) 就職、病気療養、経済的理由のため		
(中退防止・中退者支援のための取組) 担任が学生の状況を確認し、欠席が多い学生の面談や学生からの相談を受けており、担任に話しづらい場合は学生相談室の利用、保護者への郵送による出席状況報告をして学生支援を実施している。		

②学校単位の情報

a) 「生徒納付金」等

学科名	入学金	授業料 (年間)	その他	備考 (任意記載事項)
鉄道・トラベル 学科 (2年制)	200,000円	740,000円	320,000円	
ビジネス総合学 科 (2年制)	200,000円	740,000円	320,000円	
スポーツ学科 (2年制)	200,000円	740,000円	320,000円	
修学支援 (任意記載事項)				

b) 学校評価

自己評価結果の公表方法 (ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) 前年度評価について、学校のHPにて公開している。 https:// www.all-japan.ac.jp/disclosure#ns
学校関係者評価の基本方針 (実施方法・体制) 学校運営に関し、自己点検・自己評価委員会でまとめた評価および改善計画が適切であるか検証するため学校関係者評価委員会を設置する。学校関係者評価委員会は原則として年1回開催する。 (1) 評価項目は次の項目とする。 基準1 (教育理念・目標) 基準2 (学校運営) 基準3 (教育活動) 基準4 (学修成果) 基準5 (学生支援) 基準6 (教育環境) 基準7 (学生の受入れ募集) 基準8 (財務) 基準9 (法令等の遵守) 基準10 (社会貢献・地域貢献) (2) 評価委員の構成 ① 定員は選出区分ごとに1人以上とする。 ② 選出区分は「卒業生又は保護者」「業界関係者」「高校関係者」とする。 (3) 評価結果の活用方法 自己点検・自己評価委員会でまとめた評価および改善計画につき、学校関係者評価委員の方から意見や指摘を受けた点について次のように活用する。 ① 卒業生として本学の特徴であるゼミ学習を通して、いろいろなことを学びましたが、コミュニケーション力はもちろん特にパソコンの授業は今の仕事上、資

料の作成が多いので、役に立っていますし、プレゼン力が付いたと思うので継続してほしい。

⇒更に工夫をして継続していく。

- ② 当社でも御校の卒業を採用しており御校独自のゼミ学習で培われたコミュニケーション能力が、仕事に活かされており即戦力として頑張っているので継続してほしい。

⇒更に工夫をして継続していく。

- ③ 高校生がセミナーなどの申し込みをオンラインで出来る環境はとても素晴らしい。私が学生だった時代は紙ベースで書いて提出する時代だったので大変苦労した部分があった。また入学に関する様々な手続きなどが携帯で申し込めるとするのは良いと思う。今後さらに進化させて利用しやすくしてほしい。

⇒更に工夫をして継続していく。

- ④ コロナ禍で中々研修等もできない状況の中、それぞれの学科ごとに専攻分野に関して常にレベルアップを考え研修に望み、修得した知識、技術を学生に提供している点は素晴らしいと思います。また、毎年人権研修を行っており、様々なハラスメントに関する知識を持って教壇に立っている先生方に親という立場からも安心して子供を預けることが出来ると思います。引き続き継続をしてください。

⇒更に工夫をして継続していく。

- ⑤ 各学科の学修成果については素晴らしいものばかりなので、引き続きがんばってほしい。

⇒今以上に成果を出せるように工夫をしていく。

- ⑥ 経済的支援について独自の支援制度を設けている点において、高校でも部活にしっかり取り組みたくて入学する子もいるので、進学先でもスポーツをしたいという生徒も増えている。実技特待制度があると高校側も進路相談で紹介しやすいのでありがたい制度だと思うので続けてほしい。

⇒更に工夫をして継続していく。

- ⑦ 学校行事、各種研修、実習等が新型コロナウイルス感染症拡大の影響で中止になる中、当社でもインターンシップの受入れをしていたが、双方向といいますか、送り出す学校側もコロナ禍で保護者の理解を得にくく、現在は控えている状況です。私どもは強い要望があれば受け入れ態勢は整えているが、職員はリモートワークでいないなどの環境から校数を減らしたりしている。学校として何とか学生に経験を積ませたいという思いから模索して実施している点に先生方の努力が垣間見られるので環境が整い次第協力したい。

⇒両方で検討してより良い方向に進める。

- ⑧ コロナ禍でテレワーク等が推奨される中、従来の来校型によるオープンキャンパスには参加しづらい面がありますが、いち早くオンラインによるオープンキャンパスや個別説明会を導入するなど臨機応変な対応は素晴らしいです。今後は来校しなくても教室や施設などを見れる「360°バーチャル施設案内」などがあるととっても良いのかもしれない。

⇒検討する。

<p>⑨ SNS は見させていただきましたが、動画などで部活やイベントの様子、学生の生活が見れるというのは、高校生にも伝わるし、保護者の説得にもつながるのではないかと。更に進化していただきたい。 →更に有益な情報を発信していく。</p>		
<p>学校関係者評価の委員</p>		
所属	任期	種別
高等学校 教頭	令和4年4月1日～ 令和5年3月31日(1年)	高校関係者
医療関連会社勤務 支店長	令和4年4月1日～ 令和5年3月31日(1年)	業界関係者
旅行会社勤務 営業部長	令和4年4月1日～ 令和5年3月31日(1年)	業界関係者
スポーツ系企業経営者	令和4年4月1日～ 令和5年3月31日(1年)	業界関係者
鉄道会社勤務 指導車掌	令和4年4月1日～ 令和5年3月31日(1年)	業界関係者
電機系企業勤務	令和4年4月1日～ 令和5年3月31日(1年)	卒業生
<p>学校関係者評価結果の公表方法</p>		
<p>(ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) 前年度評価について、学校のHPにて公開している https:// www.all-japan.ac.jp/disclosure#ns</p>		
<p>第三者による学校評価 (任意記載事項)</p>		
<p style="background-color: #cccccc;"> </p>		

c) 当該学校に係る情報

<p>(ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) 本校トップページ https://www.nihonschool.ac.jp/ 学園トップページ https://www.all-japan.ac.jp/</p>
--

(別紙)

※この別紙は、更新確認申請書を提出する場合に提出すること。

※以下に掲げる人数を記載すべき全ての欄について、該当する人数が1人以上10人以下の場合には、当該欄に「－」を記載すること。該当する人数が0人の場合には、「0人」と記載すること。

学校名	専門学校日本鉄道&スポーツビジネスカレッジ
設置者名	学校法人立志舎

1. 前年度の授業料等減免対象者及び給付奨学生の数

		前半期	後半期	年間
支援対象者（家計急変による者を除く）		19人	17人	19人
内 訳	第Ⅰ区分	－人	－人	
	第Ⅱ区分	－人	－人	
	第Ⅲ区分	－人	－人	
家計急変による支援対象者（年間）				0人
合計（年間）				19人
(備考)				

※本表において、第Ⅰ区分、第Ⅱ区分、第Ⅲ区分とは、それぞれ大学等における修学の支援に関する法律施行令（令和元年政令第49号）第2条第1項第1号、第2号、第3号に掲げる区分をいう。

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

2. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の取消しを受けた者及び給付奨学生認定の取消しを受けた者の数

(1) 偽りその他不正の手段により授業料等減免又は学資支給金の支給を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

年間	0人
----	----

(2) 適格認定における学業成績の判定の結果、学業成績が廃止の区分に該当したことにより認定の取消しを受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のもの に限り、認定専攻科を含む。）、高等 専門学校（認定専攻科を含む。）及 び専門学校（修業年限が2年以下の ものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修業年限で卒業又は修了 できないことが確定	人	0人	0人
修得単位数が標準単位数 の5割以下 (単位制によらない専門学校に あつては、履修科目の単位時間 数が標準時間数の5割以下)	人	0人	0人
出席率が5割以下その他 学修意欲が著しく低い状況	人	0人	0人
「警告」の区分に 連続して該当	人	0人	0人
計	人	0人	0人
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

上記の(2)のうち、学業成績が著しく不良であると認められる者であつて、当該学業成績が著しく不良であることについて災害、傷病その他やむを得ない事由があると認められず、遡って認定の効力を失った者の数

右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のもの に限り、認定専攻科を含む。）、高等 専門学校（認定専攻科を含む。）及 び専門学校（修業年限が2年以下の ものに限る。）				
年間	人	前半期	0人	後半期	0人
(備考)					

(3) 退学又は停学（期間の定めのないもの又は3月以上の期間のものに限る。）の処分を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

退学	0人
3月以上の停学	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

3. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の効力の停止を受けた者及び給付奨学生認定の効力の停止を受けた者の数

停学（3月未満の期間のものに限る。）又は訓告の処分を受けたことにより認定の効力の停止を受けた者の数

3月未満の停学	0人
訓告	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

4. 適格認定における学業成績の判定の結果、警告を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のもの に限り、認定専攻科を含む。）、 高等専門学校（認定専攻科を含 む。）及び専門学校（修業年限が 2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修得単位数が標準単位数 の6割以下 (単位制によらない専門学校に あつては、履修科目の単位時間 数が標準時間数の6割以下)	人	0人	0人
GPA等が下位4分の1	人	0人	一人
出席率が8割以下その他 学修意欲が低い状況	人	0人	0人
計	人	0人	一人
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。